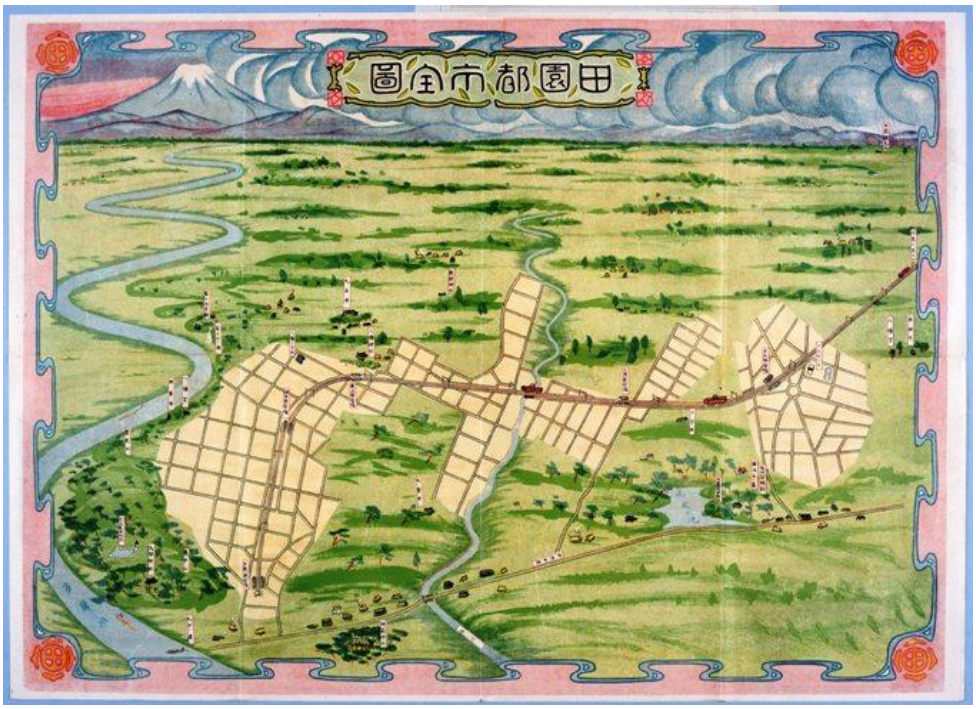
展示コーナー　資料展示のご案内

展示期間：平成 24 年 5 月 11 日～同年 7 月 27 日
場　　所：東京都公文書館　閲覧室内



田園都市全図（内田祥三関係資料）

ごあいさつ

東京都公文書館は昭和 43（1968）年、港区海岸一丁目に開館し、歴史的公文書等の保存・公開に当たってきました。しかし施設の狭隘化・老朽化もあり、新たな施設の建設までの間、この世田谷区玉川一丁目に仮移転し引き続き業務を行うこととなりました。

当館では東京都の公文書はもとより、明治元年（1868）以降の東京府、明治 22 年（1889）以降の東京市の公文書、さらに東京府に引き継がれた江戸幕府諸役所の記録や絵図等も所蔵しております。仮移転中のため十分な展示スペースを確保できませんが、毎年度工夫を凝らした所蔵資料展を企画し、都政の歴史的検証と江戸・東京の歴史探訪の機会をご提供してまいりたいと考えております。

当館所蔵資料が語る東京の歴史をじっくりとご観覧いただければ幸いです。

平成 24 年 5 月

東京都公文書館長

Ⅰ　江戸明治期史料

江戸幕府・東京府・東京市から引き継がれた歴史史料です。

江戸幕府諸機関から東京府に引き継がれた公的な文書類や、幕府の地誌編さん事業のために

収集され昌平坂学問所に保管されていた史料の一部、さらには町名主が作成してきた記録類など、貴重でユニークな史料群が形成されています。

また東京府・東京市が行った史料編さん事業の成果や、その過程で収集・筆写した記録類も今となっては貴重な歴史史料です。

このほかに、「八丈実記」をはじめとする島嶼関係史料も豊富に所蔵し、その一部が東京都指定有形文化財となっています。

■調布玉川惣畫図（複製）　１巻　弘化３年（1845）刊行

請求番号：６５４－２７－０２－０１　調布

多摩川の水源から河口（羽田付近）までを描いた川絵図。関戸村（多摩市）名主相沢伴主作成、長谷川雪堤浄書。長谷川雪堤は『江戸名所図会』で知られる江戸の人気絵師。絵図中には、多摩川両岸の史蹟・名所をはじめ、甲州道中・東海道の宿場や渡船場、人々の暮らしぶりなどが描かれています。この絵図の原型は、文化６年（1809）、多摩川の堤防検分にやってきた大田南畝の依頼で描いた「玉川勝蹟図」と推測されています。刊行にあたっては、和歌や俳諧・挿花を通じて伴主と交流のある多摩川流域の村人たちから資金が提供されました。

■江戸名所図会　十　　請求番号：ＣＩ－１６８

「多磨川（宿河原周辺）」・「玉川猟鮎」の図

■新編武蔵風土記稿　荏原郡六　　請求番号：ＤＡ－０４５

「矢口村・新田明神社」

■新編武蔵風土記　荏原郡十二　　請求番号：ＤＡ－０５１

「奥沢村　浄真寺（九品仏）」

延宝６年（1678）、珂碩上人によって開かれた浄土宗寺院・浄真寺は、奥沢の九品仏として知られ、近郷はもちろん江戸からも多くの参詣者が訪れていました。そのため、天保５年（1834）・7 年に刊行され大ベストセラーとなった名所案内の決定版「江戸名所図会」においても、絵図入りで詳しく紹介されています。

幕府官選の地誌「新編武蔵風土記」も同様に奥沢村の項で浄真寺を取り上げ、その門や堂舎の配置、寺宝などを詳説しています。上品堂、中品堂、下品堂の三仏堂が並び、各堂ごとに三体の阿弥陀仏を安置し、ここから九品仏堂とも唱えることとなったとあり、現在につながる地名・駅名の由来が説明されています。

■四神地名録　下　（『東京府文献叢書』甲集十三ノ下）　　請求番号：ＤＢ－０１５

■江戸名所図会　八　　請求番号：ＣＩ－１６６

「等々力不動　満願寺　細井広沢の墓」

四神地名録は、江戸時代中期の地理学者・古川古松軒が、幕命により調査・編述した江戸近郊の地誌で、寛政６年（1794）６月の自序が記されています。実地調査に基づいて各村ごとの風土・物産・寺社・名所旧跡などを記述しており、貴重な情報を今に伝えています。原本は国立国会図書館に所蔵されています。

東京府は明治 10 年（1877）から組織的な府史・地誌の編修事業を開始しますが、その一環として、江戸・東京に関する主要な地誌・記録が写本として集録され、東京府文献叢書（甲集 126 冊、乙集 25 冊、目録１冊）としてまとめられました。ここではその中に収録された「四神地名録」をご紹介しています。

■江戸傍近図（下図）　請求番号：６５４－０２－０３－０５

備中国出身の地理学者古川古松軒は、「西遊雑記」・「東遊雑記」などの著作で世に知られています。古松軒は寛政６年（1794）に幕府から「御府外之地理并寺社名所旧跡」の調査を命じられ、「四神地名録」としてまとめ、幕府に提出しました。この時セットとして納められた「地理図」がこの「江戸傍近図」です。

作図された範囲は江戸周辺の荏原・多摩・豊島・足立・葛飾の５郡で、その範囲内の地域を実地調査した上で、村名・村高・街道・河川・寺社名所・村々風土の評価・産物などが記されています。

ここでは原寸大の複製図と、世田谷区周辺部分の拡大図を並べて掲示しました。

村名表示が黄土色の村は幕府領、焦茶色の村は私領または寺社領、半々に色分けされているのは、幕府領・私領が入り交じっている村です。

■新編武蔵風土記　荏原郡十一　　請求番号: ＤＡ－０５０

「下野毛村・東大塚」

この史料で「東大塚」として紹介されているのが、現在の「野毛大塚古墳」です。５世紀前半に築造された南武蔵の有力な首長墓であり、関東地方の中期古墳文化を代表する古墳として東京都指定史跡にもなっています。

「新編武蔵風土記」によれば、江戸期においても「布目瓦」や「瀬戸物ノカケ」「ウズ巻ノカタアル土器」などが掘り出されていたといいます。また、高台にある「小山」のような古墳上からは、多摩川はもとより品川沖、さらには遙かに安房・上総を眺望でき、「絶景ノ地」であったと記されています。

Ⅱ　公文書（東京府・東京市）

明治元年（1868）から昭和 18 年（1943）までの東京府の引継ぎ文書と、明治 22 年から昭和 18 年に至る東京市の引継ぎ文書で、あわせて約 34,500 冊の公文書です。近代日本の首都・東京の歴史的展開を跡づける貴重で膨大な公文書群であり、平成 15 年に東京都有形指定文化財となりました。

昭和 18 年 12 月、戦局が悪化し本土空襲の可能性が高まる中、東京都は文書疎開計画を立てましたが、東京府文書は事前廃棄すべきものとされました。しかし幸いにも当時の東京市史編纂室にその一部が移管され、独自の文書疎開によって戦災を免れたのです。先駆的な史料編さん事業が、歴史に空白が生じることを防いだ事例といえるでしょう。

■私学校明細簿　第２・朱引外　自明治十年六月至同八月　　請求番号：６０８．Ａ３．２５

明治 5 年（1872）8 月、わが国の近代学校制度に関する最初の基本法令、「学制」が発布されました。これ以後、とりわけ小学校の設立が急がれますが、その母体となったのは江戸時代後期以降発達してきた寺子屋や私塾でした。明治 10 年のこの文書から、近代的な学校制度が確立していく過渡期において地域の教育を支えた、寺子屋・私塾の様相を窺うことができます。

■町邨会議録　自明治二十五年至同二十六年　　請求番号：６２０．Ｃ８．１１

明治 21 年（1888）4 月、市制・町村制が公布されました。近代日本の地方自治の基本を定めたこの法律の施行に伴い、空前の規模の町村廃合が断行されていきます。そうした中、等々力・上野毛・下野毛・野良田・用賀・瀬田・奥沢・尾山の８ヶ村からなる玉川村では分割・分離を要求する動きが活発でした。結局は当初案通りに合併しますが、その後も村政運営に長くしこりが残りました。

展示公文書は、東京府荏原郡長が東京府知事あてに差し出したもので、村長・助役選挙を行っても当選者がすぐに辞任してしまうので、村外の者を有給で雇って村長助役に充てることの認可を求めています。

■大正十年・土木・鉄道軌道　第一種・東京府冊ノ五　　請求番号：３０４．Ｆ６．１５

■大正十三年・土木・鉄道軌道　第一種・東京府冊ノ十三　　請求番号：３０４．Ｄ８．１５

大正末期から昭和の初期にかけて、大都市周辺における私鉄の発展はめざましいものでした。この時期の東京府文書の中には東京急行電鉄の母体となった田園都市会社・目黒蒲田電鉄などの関連史料を見出すことができます。

Ⅲ　公文書（東京都）

昭和 18 年（1943）7 月 1 日の都制施行から現在に至る引継ぎ文書です。

これらは都の事業の参考資料として公務利用に供されるとともに、都政を跡づけ検証する資料として、また広く現代史研究の基礎史料として一般に公開されています。

平成 23 年 4 月に「公文書等の管理に関する法律」が施行され、公文書の管理と歴史的公文書等の保存・公開への取り組み強化が求められる中、当館では昭和 20～30 年代の文書を主要な対象として所在調査と収集活動に取り組むなど、所蔵都文書の充実に努めているところです。

■「オリンピック招致事務局の設置について」　　請求番号：Ｌ０４．０１．１

『昭和 29 年度 生活文化局 オリンピック 1』〔昭和 29 年（1954）10 月 20 日決裁〕

1964 年、第 18 回オリンピックは東京で開催されました。しかし、そこに至るまでには長い道のりがありました。

東京都知事・安井誠一郎が第 17 回オリンピック招致を表明したのは昭和 27 年（1952）5 月、サンフランシスコ講和会議で調印された対日平和条約が発効し、日本が連合国の占領下から独立を果たしてから 12 日後のことでした。それから 2 年後、招致活動の進展に危機感を募らせた都は、連絡調整機能の向上を図るため招致事務局を設置しました。その際の公文書です。

残念ながら第 17 回大会はローマ開催と決定し、東京都はその次の大会を目指すことになります。

■『第 18 回オリンピック競技大会開催希望都市に対する質問への回答書』

（同附図）駒沢スポーツセンター計画図（1958 年、東京都）　請求番号：Ｍ０４．０４．９

オリンピック開催都市の絞り込みに向けて、ＩＯＣから施設・財政その他の開催条件についての質問が届き、東京都は回答書を提出しました（提出原本は英文）。

展示図面は同回答書に添付された図面の１つで、「駒沢スポーツセンター」の建設計画図です。実際の完成形とは若干の違いがあり、日本語の名称も後に駒沢オリンピック公園に統一されていきました。

Ⅳ　個人アーカイブ等

公的な組織ではなく、個人の収集・所蔵資料を寄贈・寄託された資料群が「個人アーカイブ」です。

ここでは質量ともに充実した内田祥三（うちだ・よしかず）関係資料をご紹介します。内田祥三(1885-1972)は建築家・建築学者で、関東大震災後、東京帝国大学の主要建造物を設計建築したことで知られています。また、復興局補償審査会委員、同潤会理事、都市計画東京地方委員会委員、建築学会会長、東京大学総長などを歴任し、関連する貴重なアーカイブを形成していきました。そのコレクションは都市計画･建築関係資料の宝庫ということができるでしょう。

■都市計画資料　田園都市　　請求番号：Ｕ５１９．８－とし－２８４０

内田祥三氏の研究ノート。イギリスのエベネザー・ハワードが提唱した「田園都市」論は、都市の社会・経済的利点と、農村の優れた生活環境を融合させた新しい都市計画・住宅地計画として、日本をはじめ世界各地に影響を与えました。そのハワードらが主導して実際に建設されたロンドン北郊の田園都市、レッチワースについてのメモが記されています。

■（財）同潤会 事業概況(昭和４年)　　請求番号：Ｕ３６５．３５－とし－３６２５

（財）同潤会 事業概況（昭和 12 年）　　請求番号：Ｕ３６５．３５－とし－３６２３

（財）同潤会 洗足台分譲住宅案内（昭和６年）　　請求番号：Ｕ３６５．３５－とし－３６２４

関東大震災の翌年、大正 13 年（1924）５月、震災後に寄せられた義捐金から 1,000 万円の交付を受け、内務省社会局の外郭団体として設立されたのが、財団法人・同潤会です。大震災後の対策として小住宅を建設経営すること、重度の障害を受けた罹災者の救護・義肢製作等を目的に設立されましたが、仮住宅の整備に引き続いて、昭和初年にかけて、東京・横浜にアパートメントハウス、不良住宅改良事業としての鉄筋コンクリート造共同住宅、サラリーマン向け分譲住宅等を建設し、本格的な公的住宅供給機関として大きな役割を果たしました。多くの調査報告書等も刊行し、日本の住宅研究の水準を高める上でも多大な貢献をしています。

<memo>

平成 24 年 5 月
東京都公文書館編